

# 第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/27】

## 男子準決勝

滋賀県選抜

7

3	—	3
0	—	1
2	—	3
2	—	3
PSO		

10 神奈川選抜

審判： 御崎 智徳  
宇田川 佑里子

滋賀県選抜	15	SH数	18	神奈川選抜
	3	速攻数	11	
	5	ST・SB	11	
	3	SH・P誘発アシスト	8	
	23%	GK阻止率	36%	
	6	EX反則数	3	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

ディフェンスからの速い飛び出しを武器にジュニア世代を牽引している神奈川と、こここのところのジュニア大会で上位進出してきた成長著しい滋賀との準決勝第1試合。

### 1P

戦前の予想通り、神奈川は得意のGK吉村からの前線へのアシストパスで速い飛び出しの仁木がペナルティを誘発して、木村が決めて先制。その後もボール接点での退水誘発で攻めるもシュートが決まらず、思ったほどの点差に広がらない展開に。シュートのほとんどがバウンドで、十分にボール特性とマッチしていない状態でのシュート選択の確認ミス。それを逆に滋賀に突かれ、ゴール前への鋭いドライブ攻撃で応酬し、退水やドライブ攻撃で神奈川を攻めたてて連続得点し、第1ピリオド滋賀3-3神奈川と同点で終了。

### 2P

お互いに持ち味を出した攻防が長く続き、両チームともに無得点で終わるかと思った残り30秒。滋賀のシュートが枠外となったタイミングで、再び神奈川の得意とするGK吉村のロングアシストパスが前線に速攻を出した森谷に渡り、そのままゴールにまで迫ってシュートを決めたのが26秒。滋賀3-4神奈川と1点差の状態前半を終えた。ここまで、神奈川の得意な速攻は繰り返し出しているものの、シュートがやや雑。対する滋賀は攻撃中の反則や、肝心の場面でのパスミスという双方にミスが目立った展開が拮抗したゲーム展開につながっていた。

### 3P

開始早々、センターボールを取って展開した滋賀に痛恨のミス。右サイドに出た選手がボール処理を誤ってコート外に出してしまい、そこを神奈川に速攻を出されてペナルティ。ここも久保田がシュートを決めて2点差とした神奈川。開始早々だっただけに滋賀にとってはやや不用意なプレーでの失点が響いた。その後、滋賀は三輪の退水場面や右からのドライブSHで食い下がるが、ピリオド最後は神奈川の鈴木にセンターシュートを決められて、滋賀5-7神奈川と2点差となって最終ピリオド勝負へ。

### 4P

このピリオドも先手は神奈川。センターボールから久保田がセンターシュートを決めて3点差。ここから滋賀が必死の巻き返しに出て、清水のセンターシュート、三輪の6mシュートで食い下がったが、最後には神奈川に退水シュートときれいな4対3速攻攻撃で仁木が決めて滋賀7-10神奈川で試合終了。勝った神奈川が優勝した第2回大会以来の決勝に進出した。

## 【プレー分析から】

チームスタイルが示すように、神奈川の速攻やエクスクルージョンを奪う回数は滋賀を圧倒。それだけ攻撃時の数的有利状況を作り出せていたわけだが、シュート決定率に課題を残した。この試合でも神奈川のGK吉村のロングアシストパスが得点に直結して本領を発揮したが、通常レベルでのセーブ率を残すことはできなかった。それだけ滋賀のシュートの精度が神奈川ディフェンスを上回っていたようだ。勝った神奈川であったが、退水攻撃時のシュート選択や攻撃時の反則などでリズムに乗れず、そこを粘り強く滋賀が食い下がった試合となったが、神奈川としては攻撃時の精度を上げることが決勝での課題であろう。滋賀は、やや不用意と思われるパスやボール接点プレーでボールを奪われることが多かったことから、そうした中盤プレーの正確性を高めることが3位決定戦のカギを握ってくるものと思われる。